

歯科医師・歯科衛生士のための専門的な口腔ケア ～超高齢社会で求められる全身と口腔への視点・知識

アポロ歯科衛生士専門学校
山根 瞳（歯科医師）



B5判/128頁
定価 3,570 円
(本体 3,400 円＋税)
医歯薬出版刊
(2012 年 6 月発行)

「口腔ケア」の本は、本当にたくさん出版されています。歯科医療職向けのものだけでなく、看護や介護関係者向けのものも多数あり、書店で口腔ケアのコーナーに立つと、どれを選んでよいかわからなくなってしまいます。

本書において、角先生は一般的な口腔ケア（普及型）と専門的な口腔ケアの定義を提案されています。国立長寿医療研究センターという病院、つまり医科のなかで「口腔ケアを普及・定着させたい」と頑張ってこられた経緯からだと思います。

現在、齲蝕や歯周病の予防や治療が功を奏し、歯は確実に残ってきています。多くの高齢者がインプラントを含む補綴物を有した状態で生活するとき、歯科医師や歯科衛生士はそれをどう守っていったらよいのだろうか——。角先生はそういった高齢者の口腔機能の維持・向上を目指すとき、歯や口腔だけでなく、全身疾患の改善や全身の健康増進に向けた医療の一環として口腔ケアを位置づけようと提案されています。そのためには、歯科医師も歯科衛生士も、要介護高齢者の全身

状態や全身疾患の理解が重要であり、それを理解したうえで自分たちの専門の立場から、他職種と協働することの大切さを述べられています。実はここまでは誰にでも言えることなのです。

本書の特徴は、具体的な解決策について述べられているところだと思います。つまり、本書の構成をみても、まず全身状態を把握し、ついで目を口腔内に移し口腔状況进行评估する。それも歯や歯肉だけでなく、口腔粘膜や舌の状態、口腔機能や含嗽、嚥下、構音についても述べられ、それからはいじめてケアをするときの具体的な対応法へと進んでいきます。

特にこの部分では、高齢者の専門病院にいらっしゃる角先生がかかわられた多数の症例から多くを学ぶことができます。本文中に囲み記事として追加された「メモ」で、基本的な用語の解説がしてあるのも心憎いばかりです。また、他職種や家族とのかかわり、超高齢社会での病院歯科と地域とのシームレスな連携の大切さにも言及されています。

本書は、まさに“歯科衛生士へのエール”です。先生は日本老年歯科医学会で理事としてご活躍ですので、在宅診療や施設あるいは病院歯科で活躍されている歯科衛生士をよく知っていらっしゃいます。“もっとたくさんの歯科衛生士に専門的な口腔ケアに携わってほしい”という思いで、本書は書かれています。臨床実習に出ようとしている歯科衛生士学校の学生、新たに訪問診療や施設介護にかかわろうとしている方にもお勧めの一冊と考えます。